米国科学・工学・医学アカデミーによる量子コンピュータの進歩と展望

正誤表

（2刷）

p.48 ↓7L

誤	超単位球（球の高次元への拡張）
正	超球面（球面の高次元への拡張）

p.48 ↓8Lおよび↓10L

誤	超単位球
正	超球面

p.49 Box2-3 ↑2L

誤	ϕ は緯度である
正	ϕ は経度である

p.50 図2.4 （行）Z-Rotation, （列）回路を表す記号

誤	$R_2(\theta)$
正	$R_Z(\theta)$ （下付き文字はZ）

p.51 表2.3 最下行, （列）測定前の状態（波動関数）

誤	$\frac{\sqrt{3}}{2}\|01\rangle$
正	$\frac{\sqrt{3}}{2}\|10\rangle$

p.133 ↑5L

誤	数百マイクロ秒である。
正	100マイクロ秒である。

p.215 7.5節 ↑6L

誤	量子超越性は達成できないことが証明されるなど，現在の量子力学は不完全ないし不正確であることがわかるといった否定的な成果であっても，
正	量子超越性は達成できないことが証明されたり，現在の量子力学は不完全ないし不正確であることがわかったりするなどといった否定的な成果であっても，

p.224 ↑16L

誤	重要でなのである。
正	重要である。

p.238 ↑12L

誤	解像度
正	分解能

（1刷）

p.52 ↓8L

誤	観測すると100%の確率で，
正	観測すると100%の確率で0になり，

p.60 ↑6L

誤	基盤
正	基板

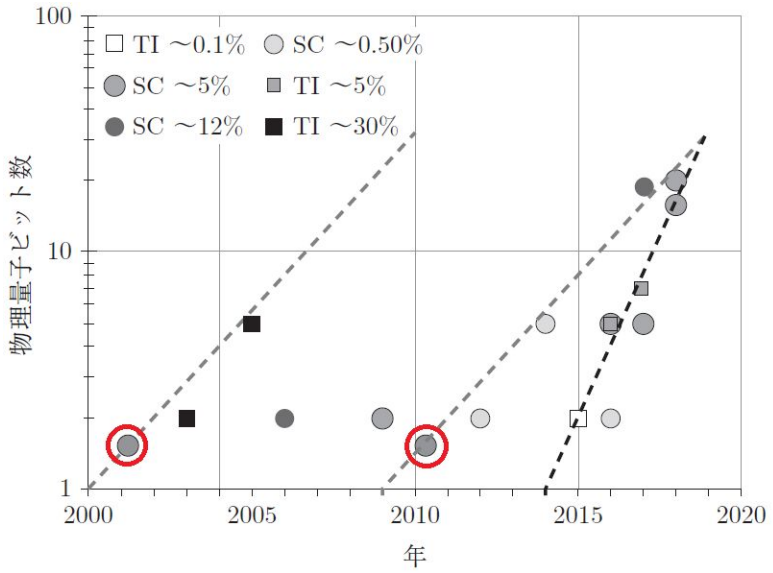
p.87 ↓7L

誤	あるいは論理量子ビットの個数かが違ってくる
正	あるいは論理量子ビットの個数かのいずれかになる

p.125 図4.1

誤	移行期間(Y)　5年
正	移行期間(Y)　3年

p.189 図7.2

誤	
正	上記赤丸箇所は不要

p.189 図7.2　図説 ↑5L

誤	1 量子ビットから開始して毎年量子ビット数が倍増した場合
正	1 量子ビットから開始して2年ごとに量子ビット数が倍増した場合

p.189 図7.2　図説 ↑4-3L

誤	1 量子ビットから始まるとした場合の同様の線
正	1 量子ビットから始まり，毎年倍増するとした場合の線